



「1.17はわすれない避難訓練」を実施して

3学期は、「1月は、行く。2月は、逃げる。3月は、去る。」とよく表現されます。

毎年、1月になると気持ちが晴れません。なぜなら、本格的な寒さと17日が近づくことへの神妙な心持ちになるからだと自分の気持ちを分析しています。皆様は、いかがでしょうか。

しかし、今年はずっと違う1月を迎えました。なぜなら、今年、園田地区の会場校ということで園田地域課や園田消防署の支援を受けての避難訓練を開催するからです。気持ちが落ち込むよりも、とにかく大勢の参加者が参加してよかったと思える訓練にしようと随分前から準備してきました。

会場校にならなくても大切にしていることはただ一つ。

「自分の命は、自分で守る」

地震や火災、大雨洪水など予期せぬ非常変災はたくさんあります。日頃からの準備と知識を増やすことが「自分の命を」守ることにつながると考え学校で行っている教育活動の中に組み込んでいます。

子ども達には、避難訓練の教育活動の目的としては、今回の避難訓練のねらいに則して情報を教師と子ども達とで収集し、知識となるように学ぶことです。避難訓練当日は、知識として持っている情報を基に行動にして体験することで自分自身の知識の確認を行います。最後に、避難訓練後には、自分が災害に対して想像していたことや情報を、実際に避難訓練を体験した結果、感じたことなどから新たな知識の定着へとつなげていきます。悲しく辛い体験は、少ない方がいいに決まっています。けれども、事前に準備したり知っていたりしたら防げることもあると思います。学校だけでなく、知らない場所でも、出かけた先でもパニックにならず行動できるようこれからも真面目に真剣に避難訓練を行っていきます。

今回、各学級で避難訓練に対するふりかえり(感想)が手元に届きましたので、紹介いたします。

高学年児童から

- ・30年たっても心に残るから、沢山の方々、全国の人々は大切な人をなくしてほしくない。この地震で亡くなった人の気持ちを考えながら生きていこうと思った。
- ・地震が起きた時の備えを何もやっていないので家族で話し合っ準備しようと思った。
- ・私は、地震がとても怖いと感じるので、家族と地震が起こったらどうするのか話し合ったり、色々揃えたりしている。
- ・当たり前のようにあると思っていた明日がなくなるということが起きて、すごく胸が痛くなった。誰かの人のために何かをできる人がいっぱいいる日本はいい国だと思った。
- ・起きていない時間に、いきなり地震が来たら慌てて避難訓練でしたこともできなくなりそうだ。ボランティアの人たちが助けてくれている映像を見て、自分もこんな風になりたいと思った。

中学年児童から

- ・避難訓練や防災学習は、自分を守るための行動をとることを学んだ。
- ・先生の指示をちゃんと聞いて、落ち着いて行動するのが大切だと思った。
- ・地震に起きた時の事を考えながら、取り組もうと思った。

子ども達にとって、的確な指示ができる大人でありたいと思うとともに、毎日大切な「命」を預かっていることの重みを再認識しました。

(文責:横山 智恵子)

